

## 博士後期課程に進んだ理由

私が博士後期課程に進んだ一番の理由は、後悔しなくなかったからです。博士前期課程では、自分の研究に対する誇りや真理を追究していく研究の面白さを感じていましたが、博士後期課程への進学は、金銭面や博士後期課程の困難さからその選択肢を諦めていました。しかし、ある日、自分が卒業後、取り組んでいる研究が引き継がれ、自分が達成しなかったものに他の誰かがたどり着いてしまったらと考える場面がありました。そのときに「自分はここまでしてきたけど何も残せないのか、それは非常に悔しいことだ」と思いました。当時は研究課題について納得するようなことは出でならず、論文を出すこともできていませんでした。その時、自分自身で解き明かしてみたい、そしてその研究結果を発表し、社会や研究分野で貢献できればうれしいと強く思いました。今この研究を続けないとこの先後悔するだろうと思い、博士後期課程を決めました。

## 博士後期課程（過ごし方・金銭面）

博士後期課程で心配なのは、博士後期課程での過ごし方や金銭面だと思います。

博士後期課程での過ごし方ですが、これまでよりも授業数が減り、自由な時間がとりやすくなって、研究に専念できる一方で、研究課題の解決のための新たなアプローチ、論文執筆や国際学会、そして申請書作成といった研究者として必要なスキルがより求められます。これに関しては教員の指導のもとで本人のたゆまぬ努力が重要になってきます。それを乗り越えるためには、自己管理が重要になっていきます。健康管理、モチベーション維持やストレス発散などが重要だと感じます。これができないと段々と大学に向かうのが億劫になり、集中ができないためです。私がストレス発散やモチベーション維持し続けられたのは、研究室の仲間や先生方のおかげでした。後輩や周りの人たちと気楽に会話できる環境を作っておくことが大事です。自分は、後輩との会話などで精神的に多く助けられてきました。先生方とは、厳しい指導等はありませんが、得られた研究についての議論や研究の取り組み方などは楽しくもあり、モチベーション維持につながります。（やはり自分が取り組んでいるものに対して興味を持ってもらえるのが嬉しいですね。）

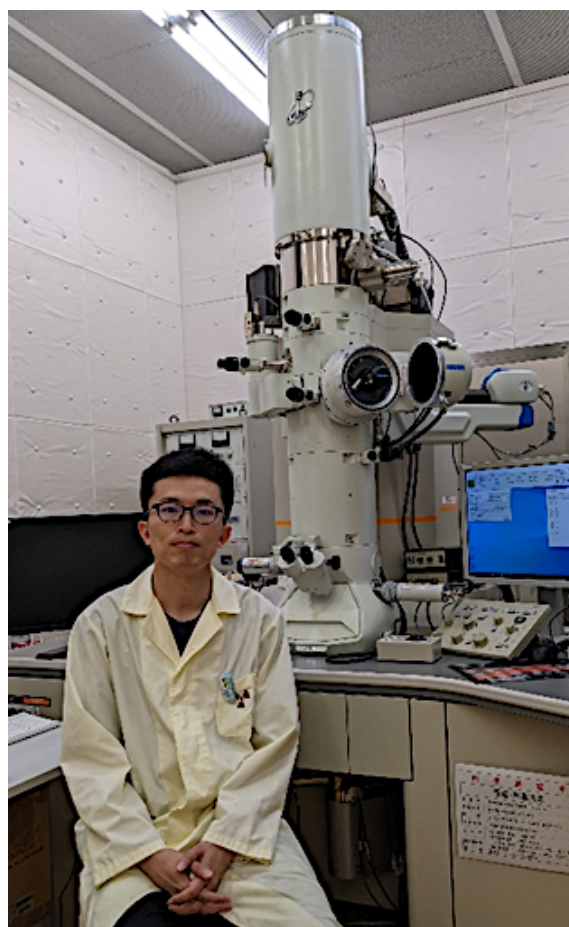
次に多くの学生が気にしている点は、生活費だと思います。博士後期課程で生活できるだけのお金をもらえる制度は、奨学金（第一種は返済免除あり）、または日本学術振興会の特別研究員制度（学振）でしょう。近年では博士進学率が問題視されていることから、博士後期課程の経済的支援を充実させる動きがみられ

ます。例えば島根大学では、上記の二つだけではなく、新たに二つの制度「JSTのSPRINGプログラム」や「NEXTAによる研究員制度」が加わりました。そのため、これまでよりも博士後期課程の経済的な問題が緩和されると思います。

ここでは、私が博士課程に進んだ理由や博士後期課程について書きました。博士進学は、誰にでもお勧めできるものではありません。しかし、自分がおもしろいと思える研究と先生や周りの仲間から恵まれていると感じるのであれば、少なくとも進学して博士課程を充実できる条件がそろっているように思います。あとは自分の踏み出す気持ち次第と私は思っています。

この記事が、読んだ人の進路の参考になることを願っています。

令和4年8月18日



総合理工学研究科博士後期課程 数理・物質創生科学コース R3 年度修了

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構

量子エネルギー部門 六ヶ所研究所

杉本 有隆 (Yutaka Sugimoto)